

2023 6/27

No.2189

毎月第2・第4火曜日発行

政経 かながわ

一般社団法人
— 神奈川政経懇話会 —



開成町あじさいの里周辺の水田地帯で「あじさいまつり」が開催された。「開成ブルー」など約5千株のアジサイが田植えの終わった水田を彩った。



contents

視点点描	3
犯罪被害者の訴え再び	
講演録	4
「今後の景気見通しと日銀新体制」 第一生命経済研究所首席エコノミスト 熊野 英生	
政治双眼鏡	8
自公の選挙協力、経年劣化 こじれる両党、流動化する保守層	
グリーン&ブルー	9
食料有事法制への嫌な予感	
サヘル・ローズ×リアルワールド	10
10歳が発した「戦争の終わらせ方」	
よんななエコノミー	11
技術立国日本はどこへ？ 少ない非製造業の研究者	
くらし2023	12
新型コロナ5類移行 患者受け入れ機関 裾野の拡大いかに	
神奈川景気データファイル	14

事務局だより

◇2023年7月の講演会

7月12日(水) 午後4時～5時
ロイヤルホールヨコハマ(横浜
市中区山下町)

講師：神奈川県知事
黒岩 祐治氏

演題：「Vibrant INOCHI
(バイブラント いのち)」

※講演後、当会の会員交流会
を開催予定。

* 8月は25日午後1時30分
から「eスポーツ高等学院
ヨコハマeスタジアム」(横
浜市中区太田町)の見学と
講演を行う予定です。

【お知らせ】神奈川政経懇話会の
2022年度決算総会後の理事会(書
面決議)が6月20日までに行われ、
新理事長に須藤浩之・神奈川新聞
社社長が、専務理事に原田一之・
京浜急行電鉄会長が選任されまし
た。並木裕之・前理事長は顧問に
委嘱。

視点 点描



犯罪被害者の訴え再び

られた存在」と形容されてきた現実を目の当たりにした。

自らも身内を殺害された岡村勲

弁護士は被害者同士で「あすの会」を設立、強く立法化を訴えていた。

それだけに基本法成立について「ようやく被害者が法に権利主体として明記され、世の中に姿を現した。法成立は『被害者の誕生日』です」と歓迎していた。その後、刑事裁判に立ち会い被告人に質問できるようにになったり、凶悪事件の公訴時効が撤廃されたりするなど制度が整ってきた。

ところが今、岡村弁護士を始め、再び被害者遺族たちが声を上げている。同会は18年、一定の前進を踏まえ解散していたが、昨年3月に再結成した。なぜか。

問題の一つになっているのが、給付金だ。警察庁によると、21年度の遺族への給付金は平均664万円。死亡時に最高3千万円が支払われる自動車損害賠償責任保険よりも低い。給付決定までの期間も平均約9カ月と長い。政府はことし6月、給付金の増額や事件直後から法的サポートを得られるよう支援弁護士制度を設ける方針を決めた。1年以内に詳細をまとめるという。

冒頭のタガタメの歌詞は終盤、こう続く。

（でももしも被害者に 加害者になったとき かるうじて出来ることは 相変わらず性懲りもなく 愛すこと以外にない）

その言を借りて、同じ社会で生きていく私たちにできることを思う。誰にでも起きうる悲劇に対し、受け皿のある優しい社会をつくっていくこと、そのための法整備の機運が滞らないよう推移を注視していくことだろう。

（神奈川新聞社統合編集局次長
デジタル編集担当・牧野 昌智）

〈子供らを被害者に 加害者にもせずに この街で暮らすため まず何をすべきだろう？〉

人気ロックバンド「ミスターチルドレン」が2004年に発表した「タガタメ」の一節だ。CMソングにもなったこの曲は理不尽な事件が相次いだことに影響を受けたと言われる。ボーカルの桜井和寿さんが穏やかな日常を願い、祈

るかのように歌うのが印象的だ。ちょうどその年、国内では「犯罪被害者等基本法」が成立した。

犯罪に巻き込まれ、突然、被害者

やその遺族になってしまった人たちは悲痛の日々が始まる。当時、司法担当だった私は、被害回復を

求めて声を上げた当事者や弁護士たちを訪ね歩いた。法的な権利もサポートも乏しく、長らく「忘れ